

【B2】

日本産業の将来を創る産学連携と知財マネジメント

モデレータからの提起

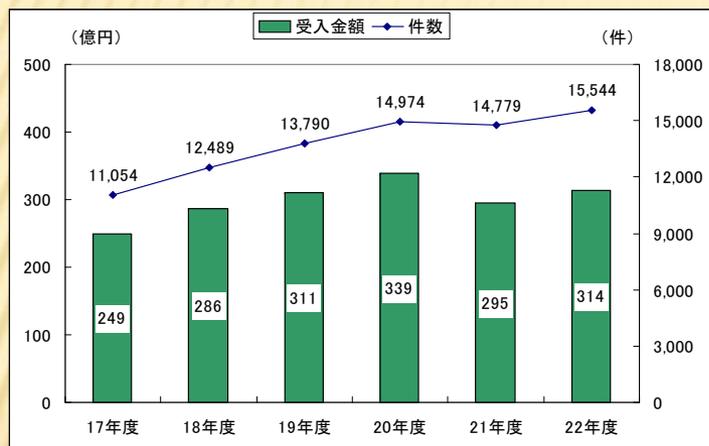
モデレータ：三木 俊克

独立行政法人 工業所有権情報・研修館（INPIT）

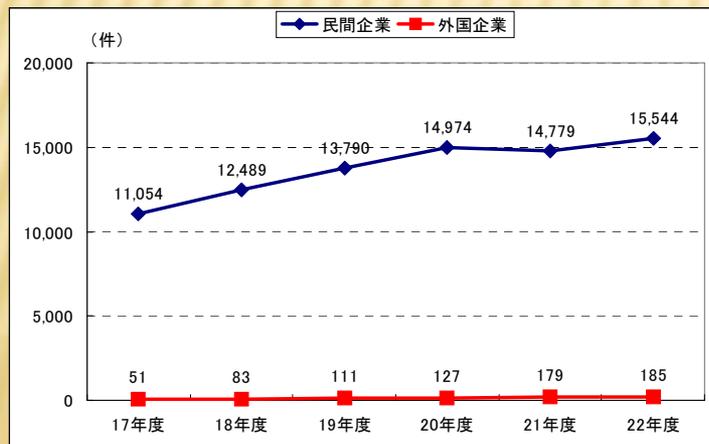
統計データ：産学連携の過去と現在（1）

産学共同研究の動向

◆民間企業との共同研究の実績の推移

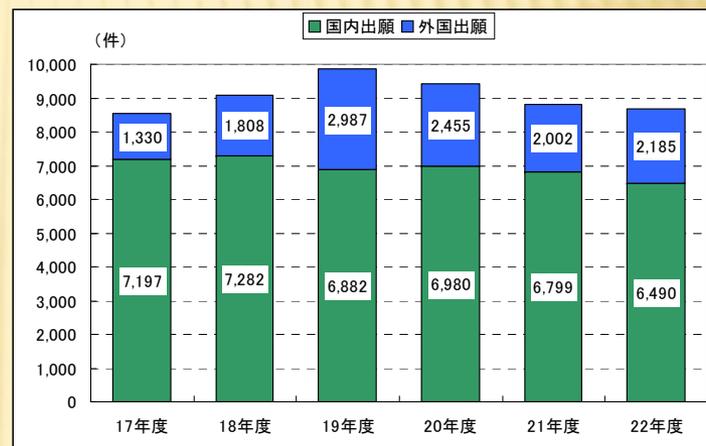


◆民間企業・外国企業との共同研究件数の推移

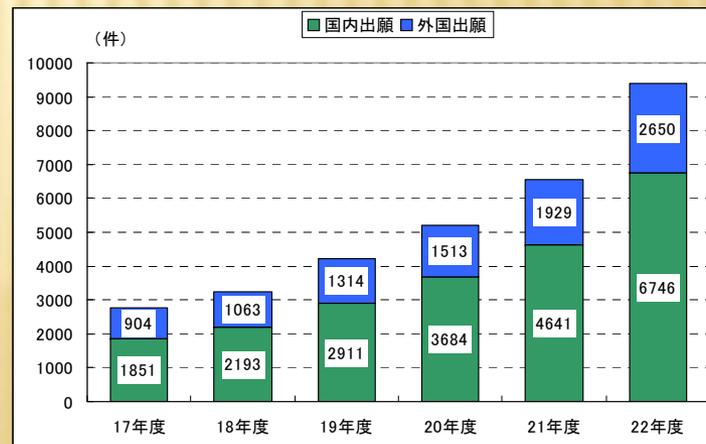


大学等の特許権利化動向

◆特許出願件数の推移



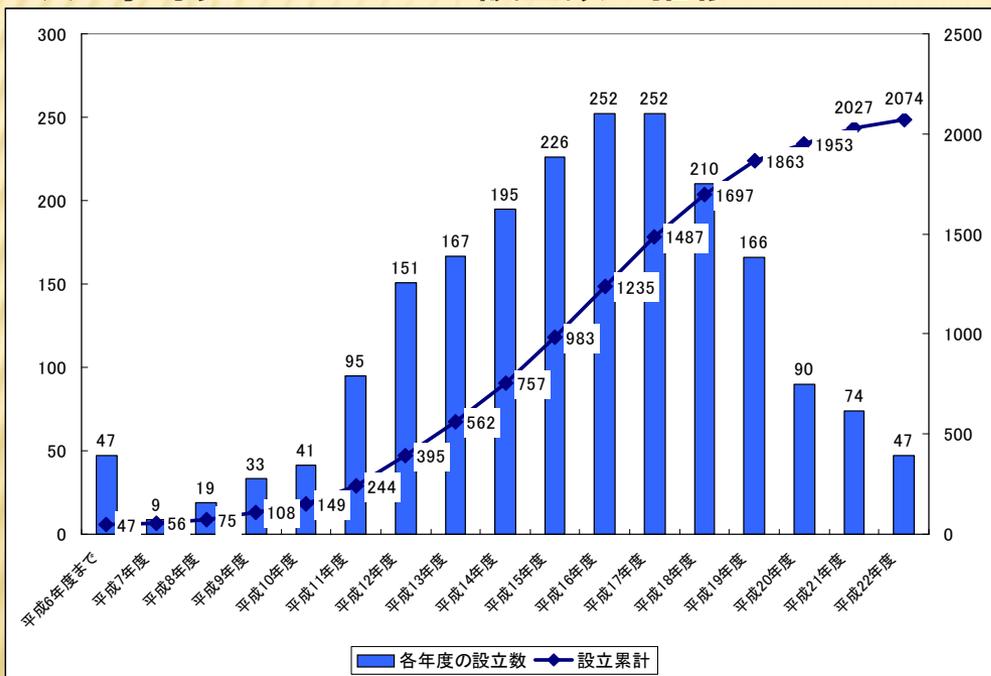
◆各年度における特許権保有状況



統計データ：産学連携の過去と現在（2）

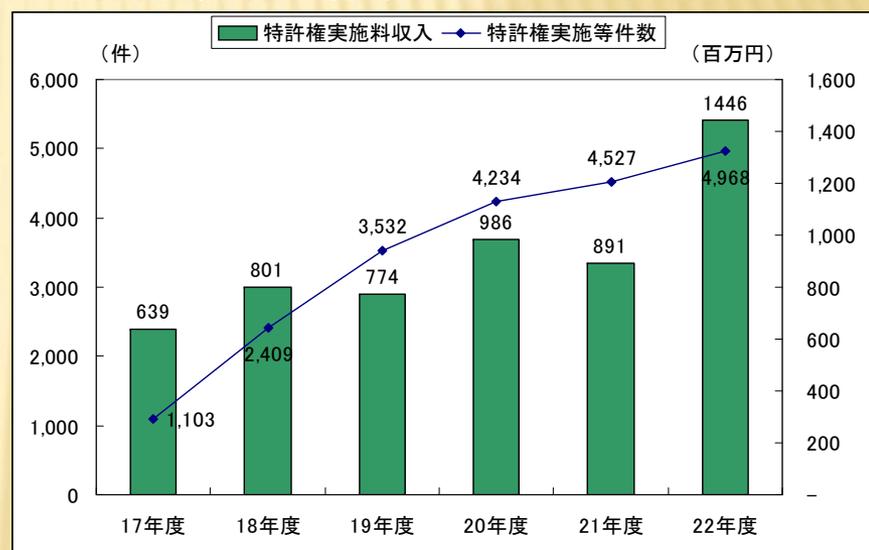
大学発ベンチャーの動向

◆大学等発ベンチャーの設立数の推移



学から産への技術移転動向

◆特許権実施等件数及び収入の推移



出所：文部科学省「平成22年度 大学等における産学連携等実施状況について」

先進国・新興国を問わず、イノベーションがキーワード！
日本産業の将来を創る産学連携の課題と戦略は何か？

産学連携と知的財産マネジメント（私見）

◆ 事業起点型の産学連携・知財マネジメント

【事業起点型1】

直近課題に対して外部知を活用してソリューション取得を目指すタイプ

→ 短期で成果を求める場合が多く、現実的な知財権利化・活用戦略が重要

【事業起点型2】

将来・近未来の課題に対して外部知によるソリューション取得を目指すタイプ

→ 中長期の時間を要することが多く、代替ソリューション案も視野に入れつつ、事業化を見据えた知財戦略の立案・実施が重要

◆ 科学知起点型の産学連携・知財マネジメント

【科学知起点型1】

画期的な新発見を事業化に発展させるタイプ

→ 中長期の時間軸での取組が必要な場合が多く、国の総合的な支援も必要
事業化出口を見据えた知財戦略の立案・実践が重要

【科学知起点型2】

新たな科学知を事業化モデルと結合して事業化に発展させるタイプ

→ 事業化モデルの迅速な実現が必要な場合が多く、想定マーケットを見据えた事業化モデルの改善、資金投入、競争力を確保する知財戦略が重要

産学連携プロジェクトへのINPIT支援メニュー

【事業起点型1】直近課題対応ソリューション取得型

現実的な知財権利化・活用戦略が重要

企業の役割大

【事業起点型2】将来課題対応ソリューション取得型

- ◎ 中長期の時間を要することが多く、代替ソリューション案も視野に入れて、事業化を見据えた知財戦略の立案・実施が重要

国等の支援も必要

【科学知起点型1】画期的新発見起点型

- ◎ 中長期の時間軸での取組が必要な場合が多く、事業化出口を見据えた知財戦略の立案・実践が重要

【科学知起点型2】科学知・事業化モデル結合型

- ◎ 事業化モデルの迅速な実現が必要な場合が多く、想定マーケットを見据えた事業化モデルの改善、資金投入、競争力を確保する知財戦略が重要

事業化推進チームと生態系型システムの役割大

知的財産プロデューサー派遣

グローバル化時代とINPITの支援メニュー

- ◆ あらゆる日本企業がグローバル市場（最近ではアジアが顕著）に出ていく時代

中堅・中小企業には支援が必要 

- ◆ 産学連携もグローバルビジネスを視野に入れて知財戦略の構築が必要な時代

**グローバルビジネスを目指す
大学発V Bにも支援が必要** 

- ◆ グローバル化時代の大学等の知財活動も変化することが必要ではないか

**日本企業のグローバル競争力に資する
知的財産の権利化・活用**

海外知的財産プロデューサー

B2 パネル・ディスカッションの進め方

◆ パネリストからのプレゼンテーション

- ・永里 善彦 様 …… 産業界の立場から
- ・石川 正俊 様 …… 大学の立場から
- ・森下 竜一 様 …… 大学発VBの立場から
- ・郷治 友孝 様 …… 投資ファンドの視点から

◆ パネル討議

- ・パネリスト間での討議
- ・会場とパネリストとの討議

皆様のご協力をお願いします

【附録】 オープン・イノベーション時代の知財戦略

- ◆ **秘匿すべき情報 = 営業秘密**
事業戦略のコア部分、技術のコア部分、顧客情報、その他のブラック・ボックス化すべき情報
- ◆ **部分開示すべき情報 = 権利化する知的資産**
産業財産権として保護する情報（制度上の公開）
- ◆ **開示すべき情報 = 戦略的開示**
夢・ビジョン、標準化戦略上で必要な技術情報、戦略的に公知化させる技術情報、マーケティング等で必要な情報、等

秘匿すべき情報と開示すべき情報の区別が重要